

文教厚生常任委員会調査報告書

(平成18年12月定例会)

1 調査事件

スポーツ振興について

2 調査の経過

平成18年 9月 8日(会期中)

平成18年 9月20日(会期中)

平成18年10月11日

平成18年10月24日

町内視察調査(武道館、余目グラウンド、相撲場、総合体育館、グラウンドゴルフ場、屋内多目的運動場、南野グラウンド、ひだまり、清川スキー場、清川河川グラウンド、立谷沢体育館、清川プール、笠山グラウンド、テニスコート、体操センター、体育センター)

平成18年10月26日(協議会)

平成18年10月31日～11月2日

県外視察調査(とっぴさんて大洋、柏市、日本体育協会)

平成18年11月 9日

平成18年11月16日

平成18年11月21日

平成18年11月30日

3 調査の結果

[現況と課題]

高齢化に伴い、老人医療費が増大する中で、健康増進によって、医療費の負担を軽減しようという動きから、健康増進施設の建設や、スポーツを通して、高齢者の健康・体力づくりや、生きがいづくりを行う仕組みが求められている。本町においても、高齢化に伴い、町財政に占める国民健康保険及び老人保健の割合・負担は、増加傾向にある。平成18年4月現在で本町の高齢化率は28.2%であり、総合計画では、合併して10年後の平成27年には、高齢化率が30.8%と予測されている。その一方で、都市化・生活様式の変化・核家族化などの様々な背景から、隣人や地域との人間関係を持たなくても生活できるようになってきたため、コミュニティーの崩壊が叫ばれており、こういったことから、健康増進とともに、心の豊かさを求める生涯スポーツの重要性が、ますます高くなっている。

本町においては、生涯スポーツの推進や競技スポーツの振興を図るために、既存の体育施設・設備の整備充実及び指導者の育成と確保など指導体制の充実を図ることが求められているが、利用頻度の高い施設・設備がある中で、体育施設・設備の老朽化が進んでいることや、合併によって範囲が拡大し、両町のスポーツ施設を共有することができるようになったことから、八幡スポーツ公園構想の見直しも含めて、既存の

施設・設備をどのように整備するかなど、第1次庄内町体育・スポーツ振興計画の策定に取り組んでいる。また、日常的に、中高年がスポーツに参加しやすい環境づくりとして、現在、総合型地域スポーツクラブの設立にも取り組んでいる。

一方、保健福祉の面では、介護保険との関係で、老人保健事業が大幅に変更される中、本町では、老人保健事業として、健康教室や相談会を開催したり、健康増進を目的とした健康づくり事業を実施しているが、メニューの中に社会体育専門員などからの指導をとり入れるなどして、社会体育との連携を図りながら、事業を実施している。事業の中では、自主運営の運動サークルなども立ち上げており、現在4サークル、200人位の方が参加しているが、今後は、会のリーダー的な指導者の育成が課題となっている。

〔意見〕

(1) 増え続ける医療費の抑制について

ア 総合型地域スポーツクラブの設立

本町では、町民一人1スポーツを掲げており、限られた一部の組織や団体が運動したり、施設を利用したりするのではなく、町民のだれもが、いつでも、気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の環境整備が必要である。そのための人材確保・組織の整備として、現在、国がすすめている総合型地域スポーツクラブの育成をすすめる必要があるものとする。総合型地域スポーツクラブの育成によって、日常的に中高年がスポーツに参加しやすい環境が整備されるとともに、地域住民が主体的に自主的にクラブを運営することで、地域コミュニティの醸成につながると思われるからである。

総合型地域スポーツクラブの運営に当っては、会員の確保や、会員が満足できるプログラムの提供などの課題があるが、運営においての一番の課題は、受益者負担が原則のため、自主財源の確保である。取組みに当っては、体育協会との協力関係は、重要だが、協会を総合型に移行するという単純な考え方ではなしに、本町の実態に合った、本町独自のやり方を見つけて、進めていくことが重要と考える。

イ 健康増進施設・設備の整備

日常的に健康増進に親しみやすい環境の整備が必要であり、そのための拠点施設・設備となる、健康増進施設の整備が重要と考える。健康増進施設は、コミュニティの場であり、温泉による「癒し」の効果があり、筋力トレーニングなどにより体力を付けることができ、専門家による医学的なアドバイス（指導）が受けられるなどの要素を備えた施設にすべきと考える。旧立川町において健康増進施設整備が計画されていたが、実践的な健康づくり・健康教育に取り組むための拠点施設が本町には必要と考える。

ウ 社会体育と保健福祉の連携強化

本町では、現在、アクア庄内（屋内プール施設）に保健師を派遣したり、保健

福祉での老人保健事業や健康づくり事業において、社会体育との連携を図って実施しているが、社会体育と保健福祉の連携は、今後ますます重要と考える。

(2) 施設・設備の整備と八幡スポーツ公園構想について

ア 老朽化や利用度の高い施設・設備の整備促進

既存の施設・設備の中には、老朽化や、水はけの悪さから、改修が必要なものがみうけられ、整備が必要と考えるが、総合体育館のトレーニングルームについては、現在会員数が6,000人を越え、毎月200人ほどの方が利用しているということで、利用者が多いことから、設備の拡充が必要と思われる。また、屋内多目的運動場については、冬期間に利用が重なるため、調整会議を開いて公平な使用に努めているが、一般の人はもちろんのこと、団体でも使えない状況であり、増設が必要と思われる。

尚、今後は、指定管理者制度も視野に入れながら、体育施設の整備を図っていくことも重要と考える。

イ 八幡スポーツ公園構想について

合併によって範囲が拡大し、両町のスポーツ施設を共有することができるようになって、合併前とは状況が異なったため、旧余目町で計画されていた八幡スポーツ公園構想については、現在町で検討が進められているが、本町の体育施設の拠点とすべき重要な施策であり、競技力の向上や交流人口の拡大として、正式競技ができる本格的な施設の整備として、早急に策定し、具現化すべきである。

尚、施設の有効活用として、相互利用の推進を図るべきである。

(3) 人材確保と指導者育成

人材面の充実として、スポ少の指導者育成、中学校の地域指導者育成、高齢者の健康増進のためのインストラクターや保健師など、環境の整備をすすめるとともに、現在すすめられている気軽に参加できる運動サークルを広めていくためにも、会のリーダー的な指導者の育成が必要と考える。

以上、これまでのスポーツ振興は、スポーツを愛する人たちの競技力の向上を主目的に進められてきたところがある。しかし、これからは、健康増進という観点でも、スポーツ振興を進めて行くことが重要であり、生涯スポーツの振興として、いつでも、誰でも、気軽にスポーツに参加できる環境を整備することが重要である。そのことが、結果的には増え続ける医療費の削減や、希薄化してきているといわれる地域コミュニティの醸成につながっていくということである。そのために、総合型地域スポーツクラブの設立や、健康増進施設・設備の整備が重要であると同時に、指導者の育成が欠かせないものとする。

尚、引き続き社会体育と保健福祉の連携強化を図りながら、町民に対する健康づくりの実践と啓発の推進が重要と考える。